

信州下伊那大鹿村

大鹿中学校歌舞伎公演会

◆公演日時 令和元年九月二十九日(日)

午後一時開演 (入場無料)

◆場所 大鹿中学校体育館

◆上演外題 「奥州安達原三段目

おうしゅうあだちがはらさんだんめ

「袖萩祭文の段」

そではぎさいもんのだん

◆指導 大鹿歌舞伎保存会

◆問い合わせ 大鹿中学校

02695-39-2220



神霊矢口渡 八郎物語の段



祝
大鹿中学校歌舞伎公演会 皆様へ
六日 中村勘九郎

写真:平成30年度上演:「神霊矢口渡 八郎物語の段」

奥州安達ヶ原三段目 袖萩祭文の段

〈あらすじ〉

かつて奥州一帯を安倍の一族が治めていた。しかし、安倍氏は朝廷の反感をかい、朝廷の命をうけた源氏により、滅ぼされてしまう。やつのことと逃げ延びた安倍貞任・宗任兄弟は、源氏への復讐と、東北地方に独立した国をたてることをもくろみ、天皇の弟である環宮を誘拐した。環宮の世話係だった倭杖は、罰として切腹を命じられる。

そこへ、父倭杖の一大事を知り、娘の袖萩が孫娘のお君を連れて会いにやってくる。しかし、袖萩は素性の分からない浪人と駆け落ちをし、父倭杖に勘当された身。夫とも離れ離れになり、娘のお君と物乞いをするまでに落ちぶれはて、心労により盲目になっていた。袖萩は懐かしい両親に会い、身の上を涙ながらに語る。それを聞いた母の浜夕は、娘を許してやってほしいと倭杖に頼むが、袖萩の夫である浪人が、実は敵方の安倍貞任だと分かり、一步も門の中に入れてもらえない。

しんしんと降り積もる雪の中、寒さに凍える袖萩、お君は雪に埋もれていく。そこへ、源氏への復讐のためわざと捕えられていた貞任の弟・宗任が逃げ出してきた。貞任の嫁ならば、父倭杖を殺せ」と袖萩に短刀を差し出す。無理難題に悩み苦しむ袖萩は、自害。時を同じくして、環宮誘拐の責任を取って倭杖も切腹をする。

朝廷の役人に変装し、倭杖の切腹を見届けにやってきた安倍貞任は、源氏方の八幡太郎義家に偽物だと見抜かれてしまう。そこ、宗任も登場し、兄弟で義家に討ちかかるが、誘拐した環宮の行方が分かるまでは勝負はお預けと義家に言われる。お君は義家に引き取られ、兄弟は戦場での再会を約束し、別れていくのだった。

〈歌舞伎の楽しみ方〉

その一 入場料は無料です。

その二 役者が登場したときや、役者がポーズを決めたときに「よっ〇〇〇」や「待っていました。」などと叫んでみてください。気持ち盛りがあって役者も頑張れます。

その三 おひねりを投げてみましょう。盛り上がる場面でおひねりを投げるのも歌舞伎の楽しみのひとつです。ただし、あまり強く投げないでください。役者に当たると痛いのです。

